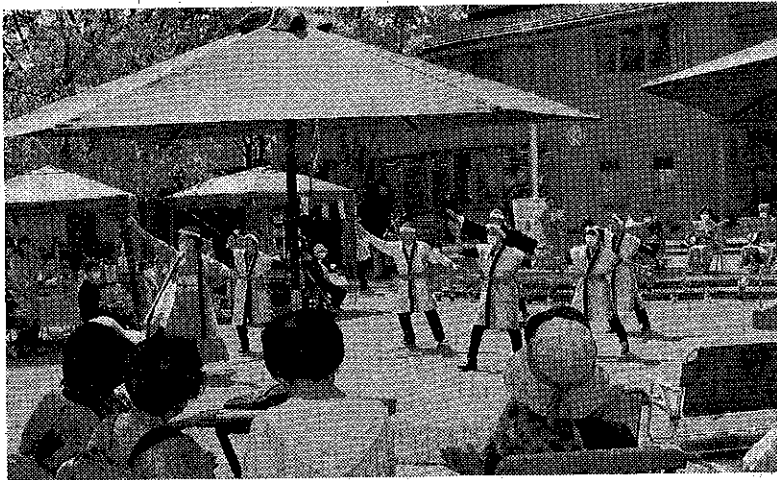


代 みんなが輝く居場所 宮 MINTフェスティバル 障がいの有無越え



和の会の踊りに見入る来場者

宮代町の社会福祉法人

じりつが運営する、障害福祉サービス事業所「MINT」が4月23日にスキップ広場で初の「MINTフェスティバル」を開催しました。

障がいがある人も地域で働いて元気になり、一緒に活動する地域の人も元気になることをコンセプトにする同事業所。東武動物公園東口の、様々な障がい者が働くエコカフェMINTみやしろは、手芸作品の委託販売やミニライブの会場として、地域住民らの活動の後押しも行ってきました。今回はコロナ禍でライブが中止になる中、多く

の団体や人から再開を熱望され、「『だったら外でやってみよう』と動き出しました」と説明する職員の高畑輝子さん。委託販売などで付き合っている町内外の9店が出店し、「和の会」が三味線と踊りを披露しました。

上友保はるみさんから手芸店の元店員4人によるグループは、身体障がい者や在宅医療患者が着やすい服の制作やメイクを手掛けています。首に装着した人工呼吸器が引っ掛からないよう襟ぐりを広げたTシャツ、動物型の杖ホルダーなどを出品し、来場者からの質問に答えています。

和の会は、最高齢91歳の千葉良雄さんをはじめ約30人が、全国の民謡で花を添えました。畑正一さん(88)は「緊張する

けど、知らない人に見てもらいたい、うれしいですね」と笑顔を見せます。「居場所づくり、コミュニティカフェを目指している」と高畑さん。パッチワークを出品した畑家真知子さんは、「最初はスタップが障がい者たちからなかったし、別に何とも思いません」と語り、障がいのある息子が学校で受け入れられず悩んだという女性は「MINTが私の癒やしにもなってくれた」と感謝します。

高畑さんが信頼を置くカフェ店員の40歳代女性は「接客は難しいですが」と笑いながらも、今回のポスターをデザイン。新人教育や別の店舗の改装も高畑さんと行います。

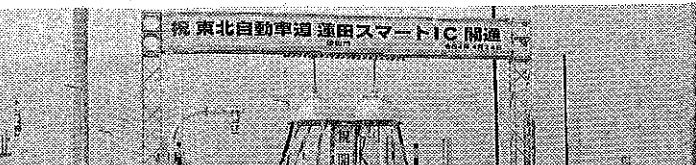
「大変だけれどやりがいがあります」と充実の表情で語りました。

表で森林インストラクターの久保木孝夫さんと、

でした。夏にはどんな変化があるのか、訪れて森

蓮田 SAにスマートIC開通 開通式典 黒浜南小鼓笛隊もお祝

蓮田中川島の東北道自動車道上り線の蓮田サービスエリア(SA)内に自動料金収受システム(ETC)搭載車専用の「蓮田スマートインターチェンジ(IC)」が4月24日に開通しました。これまでの蓮田スマートICは、同SAから約



面への入口と東北道からの出口限定で、以下のみ対応です。今回の整備では、方面への入口をAへ移設。宇都らの出口も新設車種も車長12m大し、大型車が通るように変更。開通式典で、